

麻生区区民会議 第7回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

1 開催日時：平成27年6月16日（火）午後3時00分～午後5時00分

2 開催場所：麻生区役所第4会議室

3 出席者：[専門部会委員]

岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
(欠席) 横田委員

[事務局] 井上企画課長、白石、麻生 [コンサルタント] 中島

4 傍聴者 0名

5 連絡事項

(1) 各種連絡事項について

- ・麻生区地域人材育成連絡会議について、資料を元に事務局が説明。
→本資料は、市民がリーダーの立場へ成長する過程が抜けている。
8月の部会で地域人材育成連絡会議について、担当者に説明してほしい。
- ・企画部会の議事要旨について、部会長が説明。
- ・前回の会議についてコンサルタントが説明。

6 議 事

コンサルタントより、前回の振り返りから市民活動団体の情報を届けるという方向性と、市民活動団体の信頼性を伝えるという方向性の2つの面がある旨、説明あり。その上でボランティア参加者を増やすための5つのヒント、NPO法人の信頼性に関する内閣府調査、尼崎市市民活動団体（はるる、くぼる）、燕市の情報発信事例の紹介あり。

(今後の進め方について)

部会長より、検討課題に対応する仕組みづくりのイメージについて紹介あり。ボランティア情報の一元化、ボランティア案内の統合化を例に挙げ、誰がどこでという視点で具体化していく作業が必要な旨説明あり。

また、ボランティア活動に関するアンケートについて、案を呈示。新たな調査を行うか、既存の調査結果資料を使って分析を進めたらどうかの提案あり。

- ・これからは、具体的な話を詰めていく段階。フォーラムも兼ねたボランティア展、ボランティア同士のディスカッションなど、アイデアを出していく。ポイントを絞って議論する必要あるのではないかと。
- ・前回の企画部会で話されていたが、地域の範囲、年齢の区切り等を明確にする必要がある。地域には様々な層の方々がいる。最近のシニア世代は、80歳にならないと老人会には入りたくないという方もいる。65歳～70歳代の方は趣味に没頭している。そのような人達にボランティアをしたいという気持ちを持ってもらう仕組みが必要。
- ・麻生区には裕福な人が多いので自宅に籠っている人が比較的多いのではないかと。

※事務局より、既存の調査結果として、平成25年度川崎市高齢者実態調査、市民自治の実態等に関する調査の資料を提出、主な項目を説明。高齢者の外出頻度の質問では、ほぼ毎日外出している人が約半数。社会活動・地域活動に参加しない主な理由は、「時間がない」や「きっかけがない」が約半数を占める。

- ・この部会は「市民活動・地域活動の活性化部会」と名乗っているが、これは、テーマが定まっていな中で決められた名称。実際はボランティア活動の推進という視点から審議していく必要がある。
- ・まずはターゲットを絞る必要があるのではないかと。
- ・子育て世代、現役世代、中・高校生と色々な層が考えられる。ただ、時間的な余裕などを考えると、ターゲットはシニア世代あたりになるのではないかと。
- ・大学生でも福祉や環境というテーマならば、ボランティアに関心の高い人が多い。
- ・他の層を切り捨てるわけではなく、まずは、シニア世代あたりをメインに捉え、進めていけばよい。
- ・以前に団塊世代が定年退職を迎え、多くの方がボランティア活動に参加するのでは、という「2007年問題」というのが取り上げられた。しかし実際は、60歳になって直ぐに入るといふ人は殆どいなかった。実際は70歳近くになって地域に入る人が多い。その辺りがターゲットとなると思う。
- ・「ボランティア案内の統合化」の話があったが、現在、市民館、社会福祉協議会、やまゆりの3つの相談員がもっと連携していければよいと思う。
- ・現在、その方向で取組を進めている。市政だよりやチラシでの合同の広報に取り組みむ他、相談員の連絡会

を開催し、顔の見える環境をつくっている。

- ・案内を1つにまとめることは難しい。誰がやるのか、という課題が残る。行政に要望しようにも職員は3年で担当を外れてしまう。
- ・新たにフォーラムを開催する等の話が出ていたが、既存の祭りや集まりの中に、ボランティア活動の推進の要素を組み込むことはできないのか。出店のようなイメージ。そこにアンケート調査を加えていければ。
- ・ボランティアのきっかけづくりといえば「いきいきグループ紹介館」という冊子がある。
- ・どんなに区民のためになる冊子を作っても、その冊子を作ったことが、区民に伝わっていないのでは意味がない。色々な活動をしている委員ですら知らないのなら、なおさら区民には知られていない。
- ・既につくられている冊子を区民に届くようにする仕組みが必要である。

(知らせるための方法について)

コンサルタントより考え方の例を呈示。現在進めている「川崎市シティプロモーション戦略プラン」では、市民が参加するまでの過程を「知る→関心を持つ→調べる→行く→体験する」の段階に分けて考えている。

- ・それぞれの段階で効果的なアプローチをすることによって、区民に情報が届くのではないか。
- ・関心の高いチラシは直ぐに無くなる。元野球選手に関連したイベントチラシは短時間ではけた。
- ・キャッチーな言葉として「健康寿命」が挙げられる。今までは健康寿命を延ばすのには、運動や食事が大切といわれてきたが、昨今は社会参加、生きがいや仲間作りも大事な要素になっているようだ。
- ・区民にメッセージを届けるならば社会的な裏付けが必要となる。
- ・「社会参加」の意義については聖路加国際病院の日野原重明氏が提唱している。
- ・健康のためには「今日用、今日行く」。今日、用があること、今日、行くところがあることが大事。
- ・対象のシニアについて、引きこもった人を出すのか。何をやりたいのかわからない人を参加させるのか。もう少し、具体的にしたらどうか。
- ・家に引きこもった人へのアプローチはかなり厳しい。市民活動・地域活動の活性化という意味では、方向性が異なるような気がする。
- ・何をやりたいのかわからない「もやもや」している人に向けて、参加のきっかけを作るという方向で話を進めたい。家に引きこもっている人を切り捨てるのではなく、地域活動が活性化すれば、その先に引きこもっている人も外に出られるような環境が生まれる。
- ・どのように情報を伝えればよいのか。キャッチフレーズが必要かと思う。
- ・方法としては、町会の回覧板の一番上に載せて回覧してもらうなど。
- ・先日、岡上のいこいの家を訪問したら多くの方がいた。食事などの行事は特に興味があるようだ。そういった機会も活用できる。
- ・アンケートでPRするという手法もよいのかもしれない。アンケートの回答を進めながら、冊子の存在等に気づいてもらう誘導的な手法。
- ・現役世代は市民館どころか区役所の場所すら知らない人がいる。
- ・将来の不安を解消する保険的なメリットがあれば良いのだが。一人暮らしの高齢者は、将来、介護を受ける身になることに不安を感じている。動けるうちに他人を介護することによってポイントのため、将来、そのポイントを活用して恩恵を受けることができる制度があれば。
- ・地域の現状を知るために、そろそろ外に出てみてはどうか。いこいの家の状況などを把握して地域をよく知ることが大切。
- ・区民にボランティアを知らせるための方法については、更に間口を広げて考えていく必要がある。
- ・区民祭、福祉まつり、健康づくりなど、ブースを出すイベントを決めて、そこで、アンケート調査やボランティアの基礎講座など、どんなことができるのか審議していく必要がある。

※自治創造フォーラムのその後について、事務局に質問あり。

→全市的なフォーラムとしては7区一巡で開催。H24からは自治推進フォーラムに形を変えて高津区、中原区と、2年間続けて開催。H26以降は、同じ趣旨のイベントがあることから実施していないとのこと。(総合企画局自治推進部・回答)